

平成25年内に観察したきのこたち

山川 続

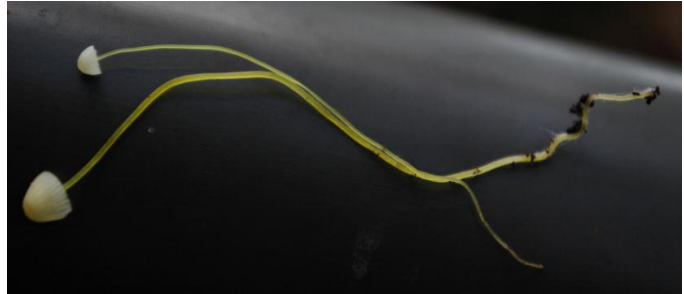
(1) ベニカノアシタケ?(ウスキブナノミタケ?) (ラッシタケ科クヌギタケ属)

観察日：平成25年11月16日

場 所：雲仙・別所ダム(鴛鴦の池)

ウスキブナノミタケは地面に埋もれたブナの実から発生し、全体的にレモン色を帯び、小型だが色が鮮やかなので美しいきのこである。

近くでブナを観察できる場所は、雲仙あざみ谷(標高約1070m)を少し登ったところである。別所ダム(別



名：鴛鴦の池)の標高は約650mとかなり低く、ダム周囲にブナが生息しているという報告はない。当日見つけた時、ベニカノアシタケと思い、写真だけ撮って、実物を詳しく調べなかったのがとても悔やまれる。そこで、2週間後、現物の確認とブナが生息しているのか調査したが、きのこもブナの葉も確認できなかった。よって、2～3個体だけの単生という発生状況も考えて、今のところウスキブナノミタケではなく、脱色したベニカノアシタケと判断するしかない。しかし、北米ではサワグルミなどクルミ科の堅果に発生するというので、クルミ科の樹下にでるウスキブナノミタケかもしれない可能性はあるので、また、調査に行きたい。

同じような仲間の小さく細長い繊細なきのこにコウバイタケとベニカノアシタケがある。

- ・コウバイタケ→おもに針葉樹林の落ち葉上に発生。傘は朱赤色のち脱色。柄もひだも白色。胞子は非アミロイド。一面に発生することはない。
- ・ベニカノアシタケ→針葉樹にも広葉樹林にもでる。傘はさんご赤色のち脱色する。柄はオレンジ色～黄色。流れや沼沢近くの湿った場所に多い。胞子は非アミロイド。一面に発生することはない。
- ・ウスキブナノミタケ→秋、ブナの埋もれた前年の堅果から発生する。傘は黄～淡黄色一面に発生する。若い胞子はアミロイド

(2) ミミブサタケ (ベニチャワンタケ科ミミブサタケ属)

観察日：平成25年6月14日

場 所：長崎市小ヶ倉水源地

平成22年7月に雲仙・白雲の池で初めて観察して以来、3年ぶりの出会いであった。しかも、もっと身近な場所での発見で驚きである。6月30にも別個体を見つけた。この場所では、ハマクサギタマゴタケ、スオウシロオニタケ、ホオベニシロアシグチなど珍しいきのこが観察され、タイミングが合えば、さらに珍しいきのこの出会いがあるのだろう。写真のは老菌なので、もっと元気な姿を求めて、また訪れよう。

- ・ミミブサタケ→胞子表面に縦線条があるが不明瞭
- ・オオミノミミブサタケ→胞子表面の縦線条が明瞭

